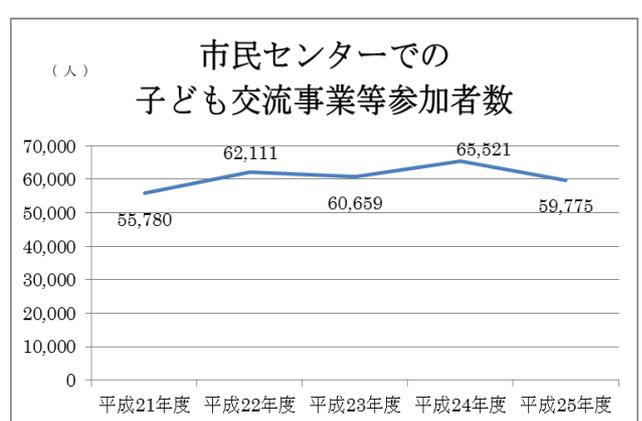
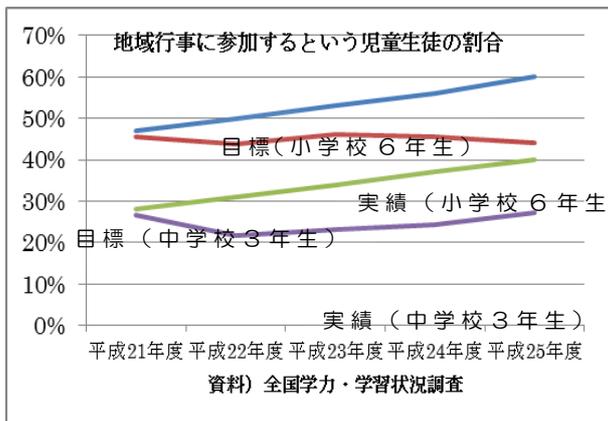
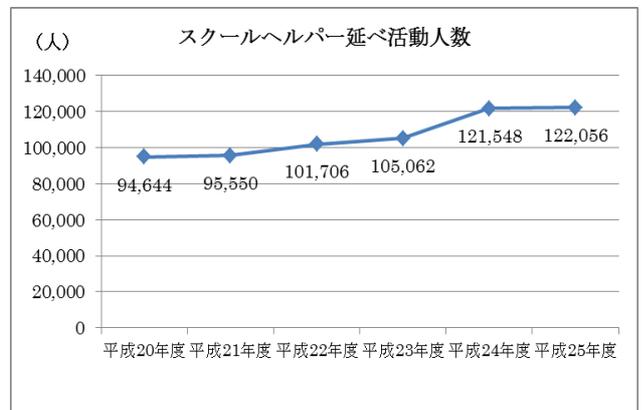
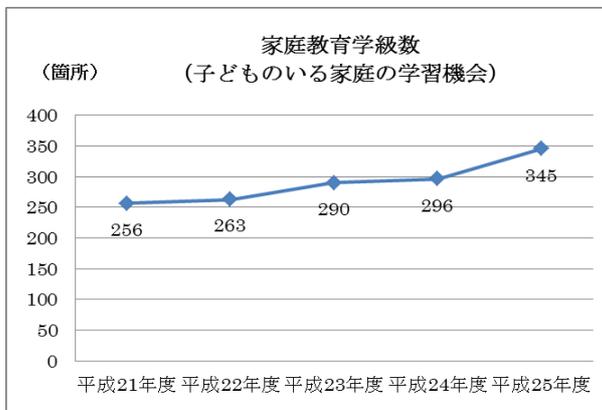


【施策5】学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

これまでの成果

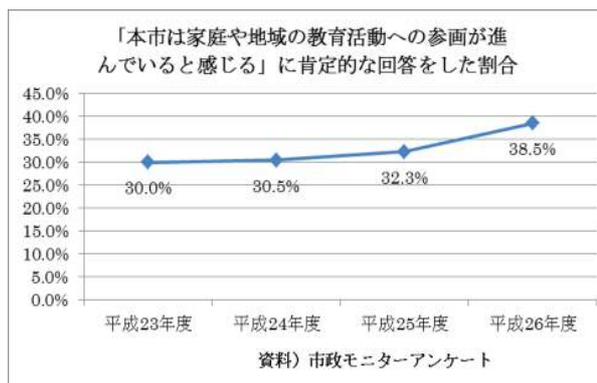
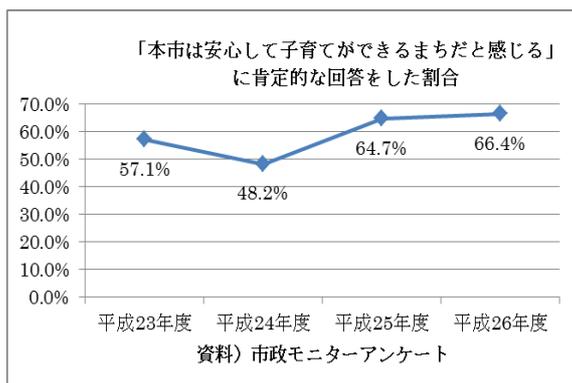
- すべての教育の出発点である家庭の教育力の向上を目指し、「家庭教育学級の開催支援」や、子育てサポーター等の活動を通じて保護者の不安軽減を図るとともに、家庭教育に関する保護者の学習支援を行いました。
- また、地域や企業等と協力して学校教育への支援を行い、学校、家庭、地域の連携強化、地域の教育力向上を進めました。具体的には、「学校支援地域本部事業の実施校の拡大」、平成23年度から新たに「北九州の企業人による小学校応援団」との連携による学校支援の仕組づくりを行いました。
- スクールヘルパーの延べ活動人数は12万人を超え、学校図書館におけるブックヘルパーの活動により子どもの読書活動の充実につながっています。



市民意識

○「本市は安心して子育てができるまちだと感じる」に肯定的な回答をした割合は増加傾向にあります。

○「本市は家庭や地域の教育活動への参画が進んでいると感じる」に肯定的な回答をした割合も増加傾向にあります。



《 今後の課題 》

○家庭における教育力の向上を進めるため、これまで「家庭教育学級」や「子どもを育てる10か条」の普及促進等の支援を行ってきましたが、家庭教育に関心のある保護者とそうでない保護者の二極化傾向が見られるため、より早い時期からのきめ細かな支援と啓発が必要になってきています。

○スマートフォンなどメディアの普及に伴い、多様かつ大量の情報が簡単、瞬時に得られる生活環境の中で、子どもが健やかに成長するには基本的な生活習慣の形成が重要です。また、子どもの豊かな心を育み学力を伸ばす役割を果たす読書習慣の定着も大切で、学校、家庭、地域、公立図書館が連携し子どもの読書環境を充実させる必要があります。

○スクールヘルパー、学校支援地域本部、企業による学校支援など、大人、地域、企業が子どもの学びを支援する取組みは順調ですが、子どもの地域行事への参加割合や市民センターでの子ども交流事業等への参加者数の頭打ちなどが課題です。子どもを中心とした地域のネットワークづくりを図るとともに子どもの健やかな成長を支援する体験活動の充実に向けてさらに検討を要します。